

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
2022年度 第5回 国際交流委員会
議事次第

日 時：2023年3月24日（金）持ち回り開催

回答期限：2023年3月30日（木）

委員校：兵庫県立大学（委員長校）、神戸市外国語大学（副委員長校）、明石工業高等専門学校
芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、関西学院大学、
聖和短期大学、芸術文化観光専門職大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸海星女子学院大学、
神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、
神戸女学院大学、神戸親和女子大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、
園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路獨協大学、
兵庫大学、兵庫大学短期大学部 （計28校）

I. 審議事項

1. 2022年度国際交流委員会 事業報告・決算（案）について （資料1）
 - ①学生海外派遣プログラム 神戸常盤大学（取組2）
 - ②模擬国連演習（NMUN） 神戸市外国語大学（取組2）
 - ③兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業（取組1）

標記に関し、中井理事長から各事業委員会に、参考資料1のとおり依頼があった。
資料1について、記載の内容で提出することにつき審議。

以上

<資料一覧>

2022年度 第5回国際交流委員会 次第

資料1-1：2022年度国際交流委員会 事業報告（案）

資料1-2：2022年度国際交流委員会 事業決算（案）

参考資料1：2023年度事業計画・予算（案）及び2022年度事業報告・決算（案）の作成について（依頼）

参考資料2：第4回国際交流委員会議事録

委員長校 : 兵庫県立大学

副委員長校: 神戸市外国語大学

委員校: 明石工業高等専門学校、芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、
 関西学院大学、聖和短期大学、芸術文化観光専門職大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸海星女子学院大学、
 神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、
 神戸親和女子大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、園田学園女子大学、園田学園女子短期大学部、
 姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部 計28校

<目的>

「国際都市神戸」を有する兵庫県の大学・短期大学・短期大学部・高等専門学校が加盟する
 コンソーシアムとしてグローバル人材育成を目指した事業を展開する。

<内容>

- 1、兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業
- 2、学生海外派遣プログラム
- 3、模擬国連演習 (NMUN (National Model United Nations))

<期待される効果>

- 1、兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業においては、学生が主体的に学ぶことによる
 行動の変容、大学連携・産官学連携による留学生支援の新たな課題とニーズの取組促進
 高度外国人材としての留学生の理解促進等の効果が期待される。
- 2、学生派遣プログラムにおいては、委員校が実施するプログラムを加盟校に開放し、
 当該プログラムに興味を持つ複数の加盟校の学生がプログラムに参加して交流することで、
 正課授業では得ることのできない経験とネットワークの構築が期待される。
- 3、模擬国連演習においては、大学が横断的に連携して実施することによる、地域内の学生間の
 交流の促進と参加者の国際問題や国連システム等に対する理解の醸成が期待される。

課題⑤ 外国人留学生と日本人学生等の交流促進		予算額
取組1	兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業	9,625,000円 * 受託事業収入
取組2-1	学生海外派遣プログラム	50,000円
取組2-2	模擬国連演習 (NMUN (National Model United Nations))	0円

【2022年度 国際交流委員会 事業報告(取組1)】(案)

【⑤取組1】達成目標	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合:参加学生の80%以上 (期間中2回測定)
【⑤取組1】活動指標	各年参加者数500名以上

課題⑤	外国人留学生と日本人学生等の交流促進
達成目標 【⑤取組1】	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合:参加学生の80%以上 (期間中2回測定)
課題を解決する 取組概要 【⑤取組1】	兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業の実施
活動指標 【⑤取組1】	各年参加者数500名以上

内容 (結果)	<p><兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業> 大学連携による国際交流の拠点を、大学キャンパス外の地域社会に形成することで留学生と日本人学生、地域の人々が学びあう多文化共生社会に向けた場を創造する。</p> <p>1、外国人留学生の活用と相互理解・共生推進のための事業 ○学生組織構築活動TeamG-navi「ファシリテーション・プロジェクト演習」 ・ファシリテーション力を身につける人材養成講座 【実施】2022年5月～7月(計6回) 【定員】15名 【対象】日本人学生・留学生(N2以上)・社会人 【実績】145名 ○大学等との連携による協働事業(加盟校等の教学協働プログラム) 【連携予定】甲南女子大学・兵庫県立大学 【実施】通年2～3回 【定員】20～40名 【対象】留学生・日本人学生 【実績】130名</p> <p>2、高度外国人材としての留学生向けキャリアサポート ○英語でのキャリアイベント 留学生のキャリアイベントを開催(公益社団法人 関西経済連合会共催) 【実施】2022年12月、2023年2月 【定員】30～50名 【対象】留学生 【実績】270名 ○キャリアカフェ「Nada Global Village(NGV)」 「自分を深める」「視野を広げる」キャリアカフェ キャリア、ダイバーシティ&インクルージョン、SDGs、文化・価値観・社会情勢、自己探求等をテーマに、 インタラクティブなイベントを実施予定 【実施】年間10回 【定員】各20名 【対象】留学生、日本人学生、社会人 【実績】934名 【国際理解深まった】93.2%</p> <p>3、防災教育「防災セミナー」 兵庫国際交流会館の地域的特性を生かし、防災減災に備えるセミナー 【実施】2022年11月、2023年3月 【定員】30～50名 【対象】留学生、日本人学生、社会人 【実績】40名</p> <p>4、地域連携プログラム「英語村」 大学生が企画し、中高校生等を対象に英語を通じたコミュニケーションの楽しさや学びを提供。【国際理解深まった】100% 【実施】2022年7～8月、12月 【定員】各20名 【対象】留学生・日本人学生・地域の小中高校生など【実績】169名</p> <p>5、留学生・国際交流情報の発信事業・支援者間ネットワークの体制整備 大学連携の特徴を活かした情報発信事業を行い、加盟校・関係団体と支援者間ネットワークを構築。 【実施】2023年2月22日留学生と日本人学生の交流を考える情報交換会他、随時関係団体と情報交換を実施 ※新型コロナウイルス感染症状況により、実施方法(オンライン・リアル・ハイブリッド)・プログラム内容の変更の可能性有 【総括】累計参加者数:1688名</p>								
新しい試み等 (事業計画に記載)									
事業収支	<table border="1"> <tr> <td>収入</td> <td>支出</td> <td>収支</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td>9,625,000円</td> <td>9,625,000円</td> <td>円</td> <td></td> </tr> </table>	収入	支出	収支	備考	9,625,000円	9,625,000円	円	
収入	支出	収支	備考						
9,625,000円	9,625,000円	円							

自己評価	【対到達目標】	4	【対継続性】	4
【第3回委員会 メール審議時内容】	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の状況を注視しながら、イベント毎にオンラインの特性(国内外から多種多様な参加者を集める)と対面の特性(文化体験や参加者間の交流)を見極め、効果的により多くの参加者に刺激のある学びを提供するプログラムを遂行した。 ・外国人留学生と日本人学生が学生スタッフとして、企画・運営・ファシリテーション等を協働して行う組織を充実させた。 (在籍学生スタッフ・16か国42名) ・地域の方や海外の方と加盟校学生と一緒に学び、交流する機会を創出した。 			

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った | <ul style="list-style-type: none"> 4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき |
|--|--|

理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)	・コロナ禍の状況を注視しながら、イベント毎にオンラインの特性と対面の特性を見極め、効果的により多くの参加者に刺激のある学びを提供するプログラムを遂行している。さらに、外国人留学生と日本人学生が学生スタッフとして、企画・運営・ファシリテーション等を協働して行う組織を充実させるとことで、地域の方々、留学生、加盟校内外の学生が交流する機会を創出している。以上のことから今後の更なる活動に期待する。
--------------------------------	--

【2022年度 国際交流委員会 事業報告(取組2-1)】(案)

【⑤取組2】達成目標	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合:参加学生の80%以上(期間中2回測定)
【⑤取組2】活動指標	プログラム数10件以上

課題⑤	外国人留学生と日本人学生等の交流促進		
達成目標【⑤取組2-1】	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合:参加学生の80%以上(期間中2回測定)		
課題を解決する取組概要【⑤取組2-1】	加盟校の国際交流プログラムとの連携促進 「学生海外派遣プログラム」		
活動指標【⑤取組2-1】	プログラム数10件以上		
内容(結果)	<p>日本は、衛生面・医療面で世界的に恵まれているが、国外において自らが体験することで医療に対する国際感覚を高める。習慣・文化・社会が日本と大きく異なる国への訪問を通して自国の状況を客観的に判断可能になり、海外から学ぶべきこと、また、海外で貢献できる点を理解し、問題解決能力を養う。</p> <p>【実施内容】</p> <p>○医療検査コース(対象学科:臨床検査技師や栄養士など医療系学科) アメリカ(ボストン) : 病院、バイオテック企業、大学研究室などへの訪問。 医療検査の知識を発展できる施設でのインタビューを通じた見学研修 ネパール(カトマンズ) : 病院、研究所、医療系大学等へ訪問、水質調査、微生物検査、衛生環境の調査など、フィールドワークを主とした内容、現地医療系学生との交流</p> <p>○看護コース(対象学科:看護師養成系学科) アメリカ(ボストン) : 世界トップレベルの病院、大学研究施設、ホームレスクリニック等へ訪問。 視野を広げる 研修 ネパール(カトマンズ) : 現地病院やヘルスポストなどへ訪問。住民の健康状態の調査などフィールドワークを主とした内容。現地医療系学生との交流</p> <p>【開催時期】 2022年度冬期、もしくは、2023年度春期(予定) ※コロナウィルス感染症の状況により開催時期を決定</p> <p>【募集人数】 各コース各国若干名 【費用】 アメリカ32万円、ネパール20万円(目安の金額。為替、航空券代金によって変動あり) 【引率者】 神戸常盤大学教員 各コースごとに1~2名 【その他】 事前および事後研修への参加が必要(場所:神戸常盤大学) ※ コロナの影響を鑑み、研修内容が変更になる場合があります。 【事前説明会】 渡航が決定すれば説明会を開催予定</p>		
新しい試み等(事業計画に記載)	コロナ禍の状況を注視しながら、イベント毎にオンラインの特性と対面の特性を見極め、効果的に多くの参加者に刺激のある学びを提供するプログラムを遂行している。さらに、外国人留学生と日本人学生が学生スタッフとして、企画・運営・ファシリテーション等を協働して行う組織を充実させるとことで、地域の方々、留学生、加盟校内外の学生が交流する機会を創出している。以上のことから今後の更なる活動に期待する		
事業収支	収入	支出	収支 備考
	50,000円	-	

自己評価 【第3回委員会 メール審議時内容】	【対到達目標】	-	【対継続性】	4
	・新型コロナウイルス感染症影響で3年続けて、見送りとなったが、コロナ禍が落ち着いた段階で再開予定			

■自己評価基準
(対到達目標)

- 4:当初計画を上回って達成
- 3:当初計画を達成
- 2:当初計画をやや下回った
- 1:当初計画を下回った

■自己評価基準
(対継続性)

- 4:本プログラムは継続すべき
- 3:本プログラムは継続しても良い
- 2:本プログラムの継続には改善が必要
- 1:本プログラムは中止すべき

理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)	昨年に続き、新型コロナウイルスの影響で中止となったが、これまで参加学生の満足度は高く、来年度以降も継続して開催することを期待する。
------------------------	---

【2022年度 国際交流委員会 事業報告(取組2-2)】(案)

【⑤取組2】達成目標	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合:参加学生の80%以上(期間中2回測定)
【⑤取組2】活動指標	プログラム数10件以上

課題⑤	外国人留学生と日本人学生等の交流促進			
達成目標 【⑤取組2-2】	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合:参加学生の80%以上(期間中2回測定)			
課題を解決する 取組概要 【⑤取組2-2】	加盟校の国際交流プログラムとの連携促進 「模擬国連演習(NMUN(National Model United Nations))」			
活動指標 【⑤取組2-2】	プログラム数10件以上			
内容 (結果)	<p>世界で最も権威のある「模擬国連世界大会(NMUN)」を、2022年11月に神戸市外国語大学が主催校として実施するにあたり、海外から集まった学生らと交流を図る貴重な機会として生かすため、「模擬国連世界大会演習」科目を2022年度後期に設置し、履修者を募集する。</p> <p>開講期間 8月8日～12月5日(15コマ) 募集人員 20人 開講場所 神戸市外国語大学 参加要件 (1)授業はすべて英語で行われるため、TOEIC800点同等以上の英語力があること。 (2)模擬国連世界大会神戸大会(11月23日～27日)への参加を必須とし、同大会参加(宿泊)費として神戸市外国語大学の受講生は1名5万円程度を、他大学からの受講生は1名7万円程度を自己負担すること。</p> <p>参加大学:神戸市外国語大学、兵庫県立大学、神戸学院大学 参加者数:学生298名11カ国の42大学・団体 (外国人学生:10カ国33校232名、日本人学生:9校66名)</p>			
新しい試み等				
事業収支	収入	支出	収支	備考
	0円	0円	0円	

自己評価	【対到達目標】	3	【対継続性】	4
	世界10か国総勢298名の学生が英語で実施する会議を通じて、参加学生の国際問題への理解を深めるだけでなく、英語での交渉や議論の能力、語学力を含む総合的な国際コミュニケーション能力やリーダーシップ力の養成に貢献した。			

- | | |
|--|---|
| ■自己評価基準
(対到達目標)
4:当初計画を上回って達成
3:当初計画を達成
2:当初計画をやや下回った
1:当初計画を下回った | ■自己評価基準
(対継続性)
4:本プログラムは継続すべき
3:本プログラムは継続しても良い
2:本プログラムの継続には改善が必要
1:本プログラムは中止すべき |
|--|---|

理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)	「模擬国連世界大会(NMUN)」は、海外から集まった学生らと交流を図る貴重な機会であるので、今後も更なる活動に期待する。
--------------------------------	--

2022年度 国際交流委員会 決算(案)

資料1-2

(単位:円)

	予算	各プログラム 予算						委員会 予算		
		取組1		取組2-1		取組2-2				
		兵庫国際交流会館における 国際交流拠点推進事業 (JASSO受託事業)		学生海外派遣プログラム		模擬国連演習(NMUN(National Model United Nations))		内訳	予算額	
		内訳	予算額	内訳	予算額	内訳	予算額			
収入	会費収入	150,000			50,000				100,000	
	助成事業収入	0								
	受託事業収入	9,625,000	JASSO受託事業収入	9,625,000						
	プログラム収入	0								
	雑収入	0								
	戻入金	0								
	計	9,775,000		9,625,000		50,000		0	100,000	
支出	会議費	80,000	会議費	8,593					会議費	8,503
	旅費交通費	130,000	旅費交通費	72,480					旅費交通費	
	通信運搬費	60,000	通信運搬費	827,248					通信運搬費	
	消耗品費	50,000	消耗品費	352,952						
	新聞図書費	10,000	新聞図書費	7,680						
	印刷製本費	50,000			パンフレット制作費					
	光熱水料費									
	賃借料	95,000							賃借料	
	保険料									
	謝金	1,161,000	諸謝金	718,714						
	租税公課									
	支払手数料	22,000	振込手数料	30,113						
	諸会費									
	委託費	852,000	HP制作費・業務委託	263,080						
	人件費	7,260,000	コーディネーター	7,344,140						
	接待交際費									
	支払支援金									
	雑費	5,000								
	計	9,633,503		9,625,000		0		0		8,503

収入-支出	141,497
-------	---------

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
事業委員会 委員長 各位

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
理事長 中井 伊都子

2023年度事業計画・予算（案）及び2022年度事業報告・決算（案）
の作成について（依頼）

拝啓 寒冷の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当コンソーシアムの活動に深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、標記の件につきまして、下記のとおりご提出いただきますよう、よろしく願いいたします。

なお、2023年度事業計画の作成にあたっては、2022年度の各事業委員会の自己評価をもとに企画運営委員会及び理事会にて作成した改善提案の内容を踏まえてご検討いただきますようお願いいたします。また、委員長校・副委員長校が交代する委員会におかれましては、新旧の委員長校・副委員長校にて適宜連携のうえ作成していただき、2023年度の委員長校からご提出いただきますようお願いいたします。ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

敬具

記

1. 2023年度事業計画・予算（案）及び2022年度事業報告・決算（案）の作成・提出

(1) 2023年度事業計画・予算（案）

提出期限：2023年2月15日（水）正午

※第6回理事会(1/19)において来年度の各委員会事業に対する予算が承認されました。

委員会事業予算（総額）：400万円

(2) 2022年度事業報告・決算（案）

提出期限：2023年3月31日（金）正午

2. 今後のスケジュール

(1) 「2023年度事業計画・予算（案）」

2023年 3月30日 第7回理事会にて審議・決定

2023年 5月（予定）定時総会にて報告

(2) 「2022年度事業報告・決算（案）」

2023年 4月（予定）2023年度第1回理事会にて審議、定時総会に上程

2023年 5月（予定）定時総会にて審議・決定

（添付書類）

- ・添付1) 2022年度 各事業委員会活動の自己評価に対する改善提案
- ・添付2) 2023年度 【記入用】事業計画・予算（案）
- ・添付3) 2022年度 【記入用】事業報告・決算（案）

以上

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
2022年度 第4回 国際交流委員会
議事録

日 時：2023年2月17日（金）15：00～17：00

開催場所：兵庫国際交流会館 1階 ナダコムステーション

委員校：兵庫県立大学（末弘、別所）、神戸市外国語大学（金子、辻井、壽谷）、明石工業高等専門学校（久保田）、大手前大学（奥田）、大手前短期大学（奥田）、関西国際大学（久保田）、関西福祉大学（高橋）、芸術文化観光専門職大学（山中）、甲南大学（小幡）、甲南女子大学（松井、沢辺）、神戸海星女子学院大学（内山）、神戸学院大学（高山）、神戸国際大学（北）、神戸市看護大学（神原）、神戸松蔭女子学院大学（板井）、神戸常盤大学（鈴木）、神戸常盤大学短期大学部（鈴木）、園田学園女子大学（井上）、園田学園女子大学短期大学部（井上）、兵庫大学（栗、堀田）、兵庫大学短期大学部（栗、堀田）

欠席校：芦屋大学、関西学院大学、聖和短期大学、神戸大学、神戸女学院大学、神戸親和女子大学、姫路獨協大学

I. 報告事項

1. 中長期計画期 事業推進体制について

（資料1）

当コンソは2006年発足し、2012年の法人化の時から始まった5か年毎の中長期計画の今年度は第Ⅱ期の初年度となる。Ⅱ期の計画下ではコンソの事業体制について「加盟校が積極的に参画でき、活性化する事業、運営体制」をコンソ理事校で構成している企画運営委員会にて検討を進めてきた。また、ビジョンに関して「大学間連携、産官学連携で人が繋がり、多様な学びを共創するひょうご神戸」とし、3つの戦略4つの柱を基に事業を運営している。コンソの目指す姿として、規模感、特性などが異なる大学39校が集まるため「多様なメンバーが学校を超えてフラットに学び合い繋がる、ダイバーシティ、イクイティアンドインクルージョン」としたと説明があった。

各事業委員会の正副委員長の決定方法について、従来の選択性から事業の質や固定化、負担論への対応、各大学ご担当者のコミットメントの向上という3つの観点から、委員長校、事業委員会の特性に合わせ、選択制もしくは、理事校内で輪番制を組み合わせることで参画しやすい仕組みとした。なお、国際交流委員会は選択制をとることとする。理由としては、自学の国際交流事業をより積極的にコンソ加盟校へ広報できる、コンソ事務局との連携によりタイムリーに他大学の国際交流の動きがわかるというメリットを活用し、自学の国際交流の強みを活かしてより効果的に推進することを希望する大学を委員長校になる手段とするためである。

申し合わせの追加事項として、3条2項の委員長校及び副委員長校の任期及び選考方法の説明の後は、今年度に引き続き、来年度から3年間2025年度まで委員長校を兵庫県立大学、副委員長校を神戸市外国語大学にご担当いただくことを伝えた。

II. 協議事項

1. 2023年度国際交流委員会 事業計画・予算（案）について（資料2）

中長期計画に基づく取り組み2点について説明があった。

- ① 兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業（取組1）

JASSO（日本学生支援機構）の受託事業で、主に当コンソが企画、計画し、加盟校と連携して実施。

② 加盟校の国際交流プログラムとの連携促進（取組2）

下記2件のプログラムがあり、2023年度も連携予定である。

・学生海外派遣プログラム 神戸常盤大学

・模擬国連演習（JUEMUN）（3月末の単位互換事業募集開始・履修登録必要）神戸市外国語大学
各プログラムについて実施大学からプログラム内容詳細の説明があった。

加えて、2023年度からは、事業年度内加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交流プログラムも加盟校の国際交流プログラムとの連携促進の取り組みとして取り扱うと説明があった。

取り扱う判断基準を以下2点のいずれかに設定する。

- 1) 各加盟校の強み・特徴を活かした国際交流プログラムを加盟校に開放することで、自学で得ることができない学びの経験とネットワークの構築の機会を学生に提供でき、加盟校の学生の学びが深まり、幅が広がることが期待される。
- 2) 加盟校が抱える国際交流の課題を加盟校間で共有し、解決に向けたプログラムとすることで、加盟校全体の国際交流の課題解消、多文化共生社会で活躍する学生の育成に繋がる効果が期待されること。

連携促進全体の予算としては、5万円を計上していると説明があった。

2. 留学生誘致について

今年度の兵庫県下学長懇での提言に従い、コンソとしてできることについて案が共有された。

① 動画制作：各大学の留学生が「自大学の良さと兵庫県の良さの2点をPRする」動画に出演

② 拡散：作成した動画を自国の留学生に拡散

（日本留学のプロモーターを担っている学生はそのツールとして利用）

③ 先輩と後輩をつなぐ：web上でオンライン先輩訪問できる仕組みを作る

（コンソ側でフォームを作り、申し込みがあった場合に各大学に繋ぐ）

留学生の推進委員として活動して対応してもらい、謝金としてはQUOカード等を検討。動画製作に関しては、JASSO受託の学生スタッフチーム（多国籍の学生が、多文化共生という観点でやってみたいことを実施するチーム）活動の一環として実施を検討している。予算は委員会予算の10万の範囲内で実施する予定であると説明があった。また、動画閲覧対象は、日本に留学したい学生の入口部分であり、大学のニーズによって自由にポイントを変えて呼びかけて頂ければと伝えられた。

3. 加盟校の留学生数の調査について

兵庫地域留学生推進交流会議廃止に伴い、留学生数や国籍等に関する調査を検討している。理由としては、以下3点が挙げられる。

- ① これまで、継続してきた調査が一旦途切れることで、統計情報としての利用価値がなくなるので何かしら続けた方がいいということ。
- ② 有事に県内の大学にどの国の学生がどれほどいるかを把握しておくのはリスクマネジメントとなる。
- ③ コンソでの取り組み設計の際にも必要。（留学生の就職支援やインターンシップ等の企画の際。

例えば、兵庫県内での留学生の就職状況に関しても、国籍や割合等細分化して考えることができる）

提出方法としては、これまでJASSOに提出している留学生数の統括表をコンソの方にも共有いただくことを検討している。いつまでに、どの情報をとというのは今後委員長とも相談して後日ご連絡すると説明

があった。

以上、3点の協議事項について委員会での話し合いの結果、全て承認された。

III. 懇談事項

1. ポストコロナの留学生交流の情報共有

各大学の状況（受け入れ、送り出し）、オンラインについて

甲南大学小幡課長からは、留学生交流は元に戻っている。欧米出身の学生を中心に現在年間40名受け入れていると共有があった。課題としては、コロナが要因となって精神面で問題を抱えている学生が増えている。カウンセリングセンターで、英語の対応が可能な教員が対応しているが、留学生の人数増加に伴って対応が困難になってきている。そこで、英語で対応可能な外部のカウンセリング機関及び心療内科について情報共有願いたいと呼び掛けがあった。医療機関については、松蔭女子学院大学板井課長から、大学周辺にある医療機関が紹介された。神戸市外国語大学辻井係長からは、契約で月に2回英語対応可能なカウンセラーに来てもらっていること、インクルーシブ教育が謳われている中で、心因性の病を理由に受け入れ拒否は難しい現状が伝えられた。また、兵庫県立大学別所課長からは、トランスジェンダーであることをカミングアウトした留学生に対する配慮として、寮を決める際の問題やフォームの性別記入欄についての課題が投げかけられた。甲南大学小幡課長からは、寮ではなくホストファミリーでの受入であるが、日常的にトイレやシャワー等の課題があると共有された。

また、神戸市看護大学神原教授からは、Zoomを使用した留学生による母国語でのカウンセリングや薬の使用方法をSNSで発信している等積極的な取り組みが紹介された。出発前の学生に生活に関する情報を流したりサポートできる学生がいることを伝えたりする等、留学生が安心できるための取組が伝えられた。各大学の留学生受入に関して抱える課題と対応策を共有できる時間となった。

2. トルコ・シリア地震への募金について

理事長提案、理事会承認予定であり、募金活動は確定していると報告があった。また、国際交流委員会として学生の学びや防災意識向上について意見交換をした。兵庫県立大学別所課長からは、トルコには協定大学があり、教員や学生同士で防災をテーマに共同研究を行っている。災害が起きた際には、学生の学びの機会だけでなく、安全性の確保も不可欠であるため、安心基準について今後検討したいと共有された。神戸市外国語大学金子センター長からは、世界で起きている国際問題について、事が起きてから動くのではなく、シリーズ的なレクチャーとして継続して学んでいくことの重要性が伝えられた。また、学校によって防災に関する情報や対応に差が出ることを防ぐため、震災が起きた時の対応を多言語で情報配信すること、現地の情報を伝えるための手段を検討していくことの必要性が伝えられた。

3. その他

神戸市外国語大学金子センター長から、長期休暇中の海外渡航届の提出状況について質問があった。兵庫県立大学別所課長からは、長期休暇の場合は、学生の自己責任のもと提出を促していると共有された。松蔭女子学院大学板井課長からは、学生の安全面を考慮すると重要性は否めないものの、提出に伴い長期休暇中の海外渡航学生全員に対して行動を迫らなければならないという教職員側の責任も発生することに対する課題についても伝えられた。神戸市看護大学神原教授からは、学生を海外に送り出す前に海外旅行保険や誓約書等についてオリエンテーションでしっかりと説明する場を設けていること、

「危機管理マニュアル」を作成し、危険性についても事前にしっかりと伝えていると共有がされた。

最後に、兵庫県立大学末弘教授から、各大学が抱える課題について今後も国際交流委員会で相談しながら、一歩進んだ形での学生支援を進めていくため引き続き協力を願いたいと伝えられ、委員会を終了した。

IV. 連絡・調整事項

1. 2022年度の国際交流委員会開催予定と主な議題について

第5回委員会 3月下旬：2022年度事業報告・決算（案）について、メール審議を行う。

2. 2月22日(水) 15時～ 情報交換会 「留学生と日本人学生の交流を考える (資料3) ～持続可能な留学生と交流を目指して～」 について告知があった。

以上